



佛國航空省技術部附一等技師勲六等マリ
 ウスヴェルニッス叙勲、件
 右謹テ裁可ヲ仰ク
 昭和八年六月二十三日
 内閣總理大臣子爵齋藤 實



内閣

賞勳局吉第ニ〇六〇號 内閣外務部ニ一号

昭和八年六月三日

内閣總理大臣 電

賞勳局總裁



佛國航空省技術部附一等技師勲六等
マリウス、ヴェルニッス、叙勲ノ儀調査スルニ右者
夙ニ帝國陸軍ニ好意ヲ有シ大正八年佛
國政府、特別ナル好意ニ依リ本邦へ派遣
セラレ來朝シ帝國陸軍航空技術、發達
ニ寄與セル所頗ル多シ昭和五年二月我
軍需工場三菱航空機株式會社、聘ニ

賞勳局

應シテ再ヒ來朝スルニ至リ主トシテ陸軍ノ
要求ニ基ク航空機ノ設計試作ニ服務
シアリシカ同七年四月ヨリ陸軍航空本部
技術部ニ傭聘專屬スル所トナリ克ク軍
部ノ意圖ヲ正解シ夙夜優秀機ノ設計
考案ニ從事シ衷心我國航空技術啓
發指道守ニ努メタリ斯クシテ獨創ノ偵察
機ヲ完成シ性能豫期以上ニ卓越セルモノ
アリテ今次事變ニ即應遺憾ナキヲ認
メラレ茲ニ九二式偵察機ノ名稱ノ下ニ制式

器杖トシテ採用セララルニ至リ大ニ皇國空
軍ノ威武顯揚ニ貢獻セル功績顯著ニ
候處傭聘満期ノ爲近々歸國可致趣ニ
付此際外務大臣上奏頭書ノ通敍勲被
仰出可然哉此段允裁ヲ仰ク

内閣

裏面白紙

佛國航空省技術部附一等技師勳六等「マリウス、ヴェルニツス」儀
別記ノ通帝國陸軍航空界ニ裨益セル功績顯著ニ候處本月末日ヲ以テ
傭聘満期ノ爲近々歸國可致趣ヲ以テ敍勳ノ儀陸軍大臣荒木貞夫ヨリ
申立有之候ニ就テハ此際右功勞ヲ御表彰被遊頭書ノ通敍勳被仰出候
様仕度此段謹テ奏ス

昭和八年六月二十二日

外務大臣伯爵内 田 康 哉



外務省

佛國航空省技術部附一等技師（中佐相當）

勳四等旭日小綬章 勳六等（旭日）マリウス、ヴェルニツス

右者資性温厚且責任感強ク航空術ニ關シ豊富ナル學識技術ト歐洲大戰當時從軍セン貴重ナル經驗ヲ有ス

同人ハ夙ニ帝國陸軍ニ好意ヲ有シ嘗テ我陸軍航空界ノ學、術共ニ列強ニ比シ遜色多カリシ搖籃ノ時期ニ當リ大正八年佛國政府ノ特別ナル好意ニ依リ「フオール」大佐以下六十餘名ノ航空團員本邦へ派遣セラレタル際右團員中ニ加ハリ砲兵中尉トシテ來朝シ帝國陸軍航空技術ノ發達ニ寄與セル所頗ル多ク其後本國ニ在リテ航空技術ノ研鑽ニ餘念ナク武官ヲ退キテ後該國航空大學ヲ卒へ益々其蘊奧ヲ極ムル

ニ至リ現ニ肩書ノ職ヲ有スル該國航空界ノ權威者トス
然ルニ昭和五年二月我軍需工場三菱航空機株式會社ノ聘ニ應シテ再
ヒ來朝スルニ至リ主トシテ陸軍ノ要求ニ基ク航空機ノ設計試作ニ服
務シアリシカ同七年四月ヨリ陸軍航空本部技術部ニ備聘專屬スル所
トナリ克ク軍部ノ意圖ヲ正解シ夙夜優秀機ノ設計考案ニ從事スルト
共ニ常ニ本國ヨリ各種航空技術ノ新研究資料其他重要ノ資材ヲ適時
入手シテ衷心我國航空技術ノ啓發指導ニ努メタリ斯クシテ獨創ノ偵
察機ヲ完成シ性能豫期以上ニ卓越セルモノアリテ今次事變ニ即應遺
憾ナキヲ認メラレ茲ニ九二式偵察機ノ名稱ノ下ニ制式器材トシテ採
用セラルルニ至リ大ニ皇國空軍ノ威武顯揚ニ貢獻シタルハ一ニ以テ
本人ノ技術並獻身的努力ニ依ルモノト謂フ可ク其功績極メテ偉大ナ

ルヲ認ム

尙之ニ引續キ更ニ高性能戦闘機及偵察機ノ基礎設計中ニシテ其考案
並指導ハ我航空界將來ノ研究上有益ナル指針ト基礎トヲ與ヘ益々斯
界ノ改善進歩ニ寄與スル所大ナルモノアリト信ス

外務省

裏面白紙

123

裏面白紙

履 歴 書

マリウス、ヴェルニッス

一 出 生 一八九六年七月二十三日

二 學 歴

- 1、高等工藝學校卒業
- 2、國立工藝技術學校卒業
- 3、航空大學卒業（一九二三年七月）

三 職 籍

- 1、一九一六年八月陸軍砲兵少尉
- 2、一九一八年八月陸軍砲兵中尉
- 3、一九二一年八月陸軍砲兵大尉
- 4、一九二一年三月陸軍ヨリ退キ航空技師トナル
- 5、現職 佛國航空省航空一等技師（古參中佐相當官ナリ近ク技

外 務 省

師長ニ昇進スル等)

6、一九一八年一月ヨリ一九一九年八月迄大佐一行ト共ニ渡日航空機製造技術ノ指導ニ任ス

7、佛國航空技術局技術部ノ偵察機、多座戦闘機、輕爆撃機、衛生機、殖民地機課長ヲ命セラル

8、佛國航空技術局製造部ノ課長ヲ命セラル

9、一九三〇年二月再度渡日九二式偵察機ノ設計製作ニ當リ且陸軍航空本部技術部ニ於テ戦闘機及偵察機ノ設計ニ從事ス

戰歴及叙勳

1、歐洲大戰ニ參加シ一九一六年「ベルダン」ニ於テ戦傷ス

2、佛國オフィシエー、ド、ラ、レジョン、ドノール勳章

3、佛國クロア、ド、ゲール勳章(パルム二個附)

4、勳六等旭日單光章

5、白國レオポール勳章

6、セルビヤ國サン、サバ勳章

外務省

は(ト)

126

裏面白紙

九二式偵察機ノ我航空技術ニ寄與セル要點
 本機ハ輕量ニシテ離着陸容易且空中ニ於ケル運動特ニ輕快ナルヲ特
 色トス試ミニ乙式一型偵察機及八八式偵察機トノ諸元ヲ比較セハ次
 ノ如シ

區分機種	全備重量	高度三千米ニ於ケル水平速度	高度三千米ヘノ上昇時間	離陸距離	着陸滑走距離
乙式	一五〇〇 斤	一八〇 斤時	二〇分	一〇〇 米	一〇〇 米
八八式	三〇〇〇 斤	一八九 斤時	一七分四〇秒	二一〇 米	三四〇 米
九二式	一五五八 斤	二〇一 斤時	一四分一〇秒	一九〇 米	一八〇 米

八八式ト九二式トハ其實用性能同一ナラサルヲ以テ前表ヲ以テ直チ

ニ兩者ノ優劣ヲ決定スヘキニハアラサルモ九二式偵察機ハ狭小ナル
飛行場ニ於テ離着陸シ得ルコト及空中戦闘能力ノ優秀ナルコトニ於
テ特ニ優秀ナルコト明瞭ナリ之等ハ又實用者ノ等シク確認シアル所
ナリ
尙九二式偵察機ハ「ヂェラルミン」管ヲ主体トシテ多量製産ニ適ス
ル結構上ノ特色ヲ有ス
以上ノ如ク同機ハ我軍用航空技術ノ進歩ニ寄與スル所極メテ大ナル
モノアリ

は
こ

外
務
省

裏
面
白
紙

賞状
箱

内閣
外務部
第二一九号

人普通第二九一號

昭和八年六月廿二日

外務大臣伯爵内 田 康 哉

内閣總理大臣子爵齋 藤 實 殿

佛國航空省技術部附一等技師「ヴェルニツス」
技勳ノ件

佛國航空省技術部附一等技師勳六等「マリウス、ヴェルニツス」
Mariusse Vernisse
技勳ノ儀別紙ノ通上奏致候間至急可然御取計相成度此段申進候也



外務省

裏面白紙

129